



アメリカCBSテレビとの包括契約を更新

TBSテレビとアメリカCBSテレビは、現地時間の12月6日、新たに10年間のニュース報道における包括契約を結び、ニューヨークで調印式を行いました。CBS側はジェフ・フェイガーCBSニュース会長とアルマンド・ヌネスCBSスタジオインターナショナル社長が、TBS側は井上弘会長と星野誠報道局長が出席しました。

この契約更改により、TBSとCBSはこれまで通り互いのニュース素材やニュース番組に自由にアクセスできるほか、SNG中継車や衛星回線など取材網・伝送手段・放送施設の使用についても互いに優先使用出来ることとなります。両社は、こうした関係を北米のみならず世界各地の取材現場での提携に拡大すること、またデジタル展開などの分野でも提携し、より強固な戦略的パートナーシップを築くことで合意しました。

TBSとCBSの独占包括契約は1991年から始まり、テレビ報道機関の国際的な提携としては最も歴史のある関係の一つですが、包括契約に基づいて引き続き互いの支局を東京とニューヨークの本社内に置きながら、この関係が今後も長く続いていくことになりました。

TBS井上会長は「映像メディアの国際化、多様化の流れの中で、CBSとの協定の持つ意義は一段と重みを増しています。今回の契約更改によって、これまで以上に多方面で連携し、両社の関係がより強固なものになるよう努力していきたいと思えます」と話しています。

また、TBS星野報道局長は「CBSとの提携はTBS報道の国際戦略における重要なファクターです。今後は地球規模で様々に協力し合い、互いに強みを生かし合って最強の戦略的互惠関係を築き、日米の視聴者により充実したニュースをお伝えできるよう努力していきます」と話しています。

一方、CBSニュースのフェイガー会長は「国際ニュースをカバーしていく上で両社の取材力を高める非常に強力な提携です。契約更改によってこれから何年もTBSと一緒に仕事ができることを嬉しく思います」と話しています。

またCBSスタジオインターナショナルのヌネス社長は「TBSとの長期にわたる友好関係は大変価値あるものです。メディア業界が急速に変革を遂げているときに、両社の戦略的な提携関係が地球規模に拡大されることは、お互いにとって大変有益なことです」と話しています。

以上